

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡 / 湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報



(写真…押原中学校生徒の砂金採り体験の様子)

学校教育・生涯学習の場として…

新学期が始まって3箇月あまり、新入生もようやく新しい学校生活に馴れ、落ち着きはじめてところでしょう。これから夏に向けて学校行事も多くなるでしょうが、中でも「課外授業」というのは、普段教室で学ぶ授業とは違い、なんとなく楽しいものです。大人になった皆さんもそんな楽しかった記憶があるのではないのでしょうか。

この時期、県内各中学校では、社会科見学の一環として2年生を対象として、「県内巡り研修」を実施しているそうです。湯之奥金山博物館もその施設の一つとして選定され、今年も多くの生徒たちが湯之奥金山の歴史が分かる映像シアターや展示室の見学、そして奈良時代から始まった日本古来の伝統的な比重選鉱法による砂金採りを体験しました。「金て重いんだ」「流れないんだね」などと口々に言いながら、楽しんでくれた様子でした。

さあ金は入っているかな？

新しいニーズに応えられる博物館

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 谷口 一夫

去る6月7～8日高山市で東海地区博物館連絡協議会、日本博物館協会東海支部総会が開催されました。その際、資料として文部省委嘱事業「博物館の望ましいあり方」調査研究委員会報告要旨が配られました。

報告書の表題は『対話と連携』の博物館－理解への対話・行動への連携－（市民とともに創る新時代博物館）というものでした。

内容はⅠ．新しい博物館の考え方、Ⅱ．新しい博物館への提言、Ⅲ．新しい博物館への挑戦と戦略、の各節に分かれ調査研究結果が述べられています。

Ⅰの新しい博物館の考え方としては、『生涯学習社会の本格的な到来は、従来の「教育の枠組み」に根本的な改革をもたらした。画一的で定型的な学校中心の教育から生涯へわたっての多様で個性的な「生涯学習システム」に軸を移した。その要因として、「モノ」から「ココロ」優先への明確な思考パターンの変換がみられる』としています。Ⅱの新しい博物館への提言としては、『博物館の公共的使命の増大であり、具体的には、生涯学習社会における学習支援の強化である』とされ、その推進方法として「博物館内における、また、博物館外との対話と連携が求められる」とされています。Ⅲの新しい博物館への挑戦と戦略については、『変容する基礎需要と、台頭する新需要を的確に受け止め、20世紀後半に起きた情報技術革命（IT革命）をも視野に入れながら、博物館の現代的機能を早急に構築しなければならない』というものです。

以上の理念は、国内外の博物館運営に共通する大きな潮流ですが、下部町の甲斐黄金村・湯之奥金山博物館のあり方は、この潮流に逸脱することなく、むしろこの理念を先取りした形で運営されています。

博物館は「収集」→「整理・保管」→「調査・研究」→「公開」→「参加」→「参画」という機能を持ち、社会的ニーズに応えるものですが、こうした博物館活動を実践しています。

また、現在、博物館に求められている新しいニ

ズは、『展示』においては、参加体験重視（ハンズ・オン）、マルチメディア、電子博物館、バーチャルミュージアム、バリアフリーなど。『教育・普及』においては、学社融合プログラムとして、アウトリーチ（館外活動）、ティーチャーズルーム（学校対応室）、エデュティメント（教育+娯楽）。学習支援プログラムとして、多彩な学習メニュー、多様なアクセス。娯楽プログラムとして、ミュージアムショップ、レストラン、イベント、本館においては砂金体験学習など。地域連携プログラムとしては、家庭、学校、地域、協議会。市民（町民）参加プログラムとしては、友の会、ボランティア、市民学芸員などがあげられます。

3、5、8頁には、今年度の当館の事業報告や計画が紹介されていますが、これらは開館以来の継続事業から、年次を追っての継続的追加事業等々ですが、こうした博物館活動が前記した博物館に求められているニーズや、それぞれのプログラムに適用されていることは、対比して御覧いただければ「新しいニーズに応えられる博物館」「新しいニーズに込めている博物館」としての御理解が頂けるかと思えます。

最後になりましたが、本館は今年4月1日から都市交流室から下部町教育委員会へ移管されました。当初から館運営は文部省（文部科学省）生涯学習局が示す方向にあって、今後の活動の上での路線変更はなく、これまでの事業実績は累積されていきます。

なお、本館は県内外への下部町のイメージアップを図ると同時に地域活性化へ向けて尚一層の努力を重ねて参ります。

写真は収蔵庫の一部



鉾山道具など1,497点を「町の文化財」に指定

町文化財審議会（伊藤要会長）では、金山鉾山道具及び関連資料1,497点を町の文化財として指定しました。

鉾山道具は、技術の伝播や発展段階を知ることができる重要な遺物であり、金山衆のありようを示す陶磁器類やその他の関連資料とともに町の文化財として指定し、保存・活用を図る必要があることから今回の指定となりました。なお、現在、山梨県の文化財として1,510点が申請されています。

内容

鉾山道具 磨り臼、磨り石、回転式挽き臼（上臼・下臼）、搗き石



磨り臼・磨り石

出土資料 陶器破片、磁器破片、碁石、銅製品、銭貨、石造物

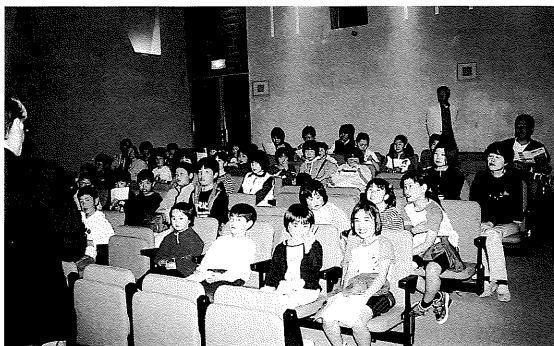


湯之奥型挽き臼



リンズ式定型臼

第6・7回 親子映画鑑賞会



開催予定

平成13年 8月22日(水) 午後 1:00～

10月27日(土) 午後 6:45～

平成14年 3月27日(水) 午後 1:00～

※夏休み、春休みは休館日を利用した日中の時間帯になります。

4月28日(土)、6月23日(土)午後6時から映画鑑賞会を行い町内からそれぞれ80人ほどの参加者がありました。

4月の上映作品は、「老人z」「ドラえもん」の2作品。6月は「ハチ公物語」の1作品。

終了後には、参加していただいた皆さんに、アンケートをお願いしています。「とても面白かった」62%など、いろんな意見をいただいています。アンケート42人中、41人が次も来たいということですので、出来るだけ皆さんの要望にお答えして、皆で楽しめる作品を上映していきたいと思っています。

第9回映画鑑賞会は、8月22日(水)に予定しています。作品・時間等についてはチラシ・博物館掲示板・ホームページでお知らせいたします。

館からのお知らせ

金山博物館が教育委員会へ

オープン以来、都市交流室という組織の中で、道の駅「しもべ」・農村文化公園と併存し、運営されてきた甲斐黄金村・湯之奥金山博物館ですが、今年度（平成13年度）から町教育委員会の所管となりました。

今後は、今まで以上に教育文化施設というカラーを出しながら、関連団体や学校教育・社会教育の場として活用されるよう、また、各種会議や講演会などでの多目的ホールの貸し出しなど、生涯学習活動の拠点施設としても御活用いただきたいと思います。

当館としては、引き続き下部町活性化のための拠点施設として、今まで以上に皆様の御来館をお待ちしております。今後も変わらず御指導・御協力をお願いいたします。

募集しまあ

ボランティア協力員

博物館では、当館の事業に御協力していただけるボランティアを募集いたします。歴史・金山に興味のある方、博物館事業に興味のある方の御応募をお待ちしております。

募集要項

- 活動内容** 来館者への資料展示の説明
砂金採り体験者への指導
- 活動時間** 午前10時～午後3時
(土・日・祭日のみ)
- 募集人員** 5人
- 応募資格** 高校生以上で、自身で博物館まで来られる方
- 応募方法** 申請用紙に必要事項を記入
(博物館受付・町教育委員会で配付)
- 提出先** 湯之奥金山博物館
TEL 0556-36-0015

平成13年度運営委員会開催

当館には「運営委員会」が設置されています。

去る5月29日、今年度で第3期目の活動となる平成13年度運営委員会が行われ、新年度委員の委嘱の後、さっそく事業計画などについて慎重に協議がなされました。

今年度の運営委員は新委員として、公開講座で講師を務めていただくなど、当博物館活動について御尽力いただいている西脇康氏（早稲田大学・白梅

学園短期大学非常勤講師）、町内からは、知識経験者として赤池喜久雄氏をお迎えし、2人の新メンバーを加えた10人で構成されています。

運営委員会の仕事は、博物館の教育的機能の充実に図り、健全な運営方法や展示計画について調査研究を行いその内容を館長に提言するという任務を担っています。

第3期の運営委員は次のとおりです。



職名	氏名	住所	選出区分
委員長	萩原三雄	甲府市	考古学研究者
副委員長	伊藤要	下部町	町文化財審議委員会委員長
委員	笹本正治	松本市	考古学研究者
	十菱駿武	八王子市	考古学研究者
	堀内真	富士吉田市	考古学研究者
	堀内亨	富士吉田市	考古学研究者
	赤池金作	下部町	町議会議長
	西脇康	武蔵野市	知識経験者
	赤池喜久雄	下部町	知識経験者
	石部典生	下部町	知識経験者

文部科学省「平成13年度親しむ博物館づくり事業」

「こども金山探険隊」を結成します。近日、隊員募集開始!

文部科学省では、青少年が楽しく遊びながら博物館が利用できるようにするため、登録博物館を対象に「親しむ博物館づくり事業」を実施しています。

その平成13年度事業に、当館では「こども金山探険隊～戦国時代金山ヘタイムスリップ～」を企画、応募していましたが、6月20日に文部科学省から事業委託の内定通知がまいりました。

これに伴い、この事業の推進を図ることになりました。事業は、①「こども金山探険隊」を編成、国指定史跡であります湯之奥中山金山または茅小屋金山を探険（7月29日(日)雨天の場合8月4日(土)を予定）、

戦国時代金山の様子を探り、同時に金鉱石を採掘します。②採ってきた金鉱石は8月18日(土)（予定）に、博物館において「こども精錬場」を開設、金鉱石を戦国時代と同じやり方で、泥状態につぶします。そして比重選鉱（博物館の砂金採り体験室と同じ方法）で金を採金。③さらに9月2日(日)には「こども金座」を開設、採った金を純金にするため灰吹き法にかけ甲州金をつくります。④最後には日時未定ですが、「隊員の自慢話大会」を開催、探険隊の解散式と参加隊員に「探険隊参加修了証」を差し上げる予定です。

平成12年度入館者は14,094人

当館の平成12年度有料入館者は14,094人（開館日数302日）を数えました。

このうち、小学生以下が1,322人（9.4%）、中学生が508人（3.6%）、大人が12,264人（87%）という内訳でした。

このうち「砂金採り体験者」は、2,307人で、入館者全体の16.4%を占めています。

この他、行政視察・旅行会社・教育活動による下見などの「無料入館者」は、336人でした。

月別入館者は次表のとおりです。

平成12年度博物館利用状況

年月	開館日数	区分	有 料 入 館 者				無 料 入 館 者	年月	開館日数	区分	有 料 入 館 者				無 料 入 館 者	
			観覧券	体験券	共通券	合 計					観覧券	体験券	共通券	合 計		
12. 4	26	大 人	663	122	276	1,061	36	12. 11	24	大 人	921	184	394	1,499	42	
		中学生	41	43	17	101				中学生	47	5	26	78		
		小学生	15	37	32	84				小学生	9	51	19	79		
		小計	719	202	325	1,246				小計	977	240	439	1,656		
5	27	大 人	907	183	286	1,376	18	12	23	大 人	303	55	108	466	54	
		中学生	5	32	8	45				中学生	10	1	2	13		
		小学生	9	63	51	123				小学生	7	9	10	26		
		小計	921	278	345	1,544				小計	320	65	120	505		
6	26	大 人	513	103	254	870	11	13. 1	22	大 人	340	60	158	558	0	
		中学生	4	0	0	4				中学生	2	2	6	10		
		小学生	37	21	16	74				小学生	14	10	30	54		
		小計	554	124	270	948				小計	356	72	194	622		
7	27	大 人	589	127	393	1,109	7	7	2	22	大 人	247	53	158	458	4
		中学生	2	4	6	12					中学生	26	0	7	33	
		小学生	14	31	16	61					小学生	3	20	21	44	
		小計	605	162	415	1,182					小計	276	73	186	535	
8	27	大 人	976	287	559	1,822	22	8	3	27	大 人	407	123	234	764	1
		中学生	22	37	58	117					中学生	26	14	19	59	
		小学生	68	187	162	417					小学生	12	55	33	100	
		小計	1,066	511	779	2,356					小計	445	192	286	923	
9	24	大 人	513	147	223	883	36	合計	302	大 人	7,352	1,611	3,301	12,264	(239) その他97 336	
		中学生	0	9	3	12				中学生	198	152	158	508		
		小学生	7	19	12	38				小学生	201	544	577	1,322		
		小計	520	175	238	933				小計	7,751	2,307	4,036	14,094		
10	27	大 人	973	167	258	1,398	8									
		中学生	13	5	6	24										
		小学生	6	41	175	222										
		小計	992	213	439	1,644										

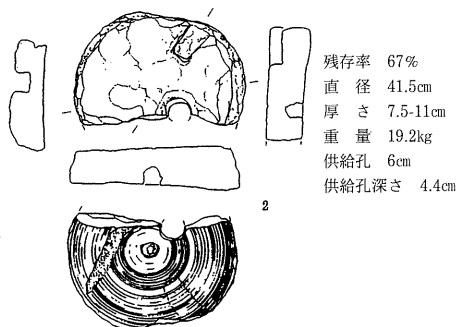
金山現地の風雨による地形の変化には驚かされるものがあります。それゆえ、今までは枯れ葉や土中に隠されていた資料が地表面に露出し、発見につながるということも珍しくありません。臼に関しても同様、これまでも現地に行った時に発見したということが何度かあり、上臼についての館での収蔵保管数は、学術調査時に発見された資料に追加資料を合わせた128点にのぼります。その中で湯之奥型挽き臼は16点、残念ながら完形品はそのうちの6点にとどまりますが、上臼の保管点数全体の12.5%を占めており、それ以外はほとんど定形型挽き臼という割合です。この数字からも、湯之奥型挽き臼が極めて少ない種類の挽き臼だということが分かります。

湯之奥型について、出土したもののから統計と平均値を出していくと、直径は39cmから40cm、厚さは使用済みで10cm前後、供給孔は直径6cm。全体的な特徴として、定形型よりもやや小形のものが多いようです。柄溝は1箇所から2箇所が確認されますが、現在のところ、柄溝が1箇所のタイプは完形品6点中1点のみです。他の10点は残存率が50%以下で、本来柄溝があった可能性のある部分が欠損しており、結果的に柄溝が1箇所しか確認できません。前述した柄溝が1箇所である資料以外の完形品5点は、いずれも向かい合わせに2箇所の柄溝を有しているものであり、湯之奥型の標準的な形というのは今のところは柄溝が2箇所である方が有力であろうと見えています。

上臼には下臼が対応しますが、いずれの臼も単一で発見されることがほとんどで、上下臼揃って発見されることは非常に希有なことです。そのため下臼のみ出土した場合、細部に細かな違いがあり、どの形態の上臼に対応するものなのか推測はたつものの、明確なことは簡単には分かりにくいのが実状です。ただ出土状況からみると、下臼一つにつき上臼を複数使用したであろうことが推測されますが、上臼よりも破損、消耗しにくかったのか、上臼の完形品が少ないことに比べ、完形品が多いことが下臼の特徴でもあります。現地山中には、移動させることは困難と思われる石に軸受孔と回転痕が見受けられ、明らかに鉦石粉碎時に使用されたものと思われる石が残されていることも下臼の面白いところです。

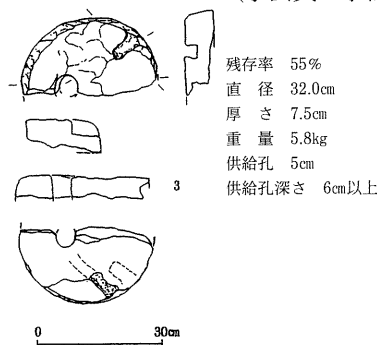
現在、湯之奥型挽き臼は、湯之奥金山（中山、内山、茅小屋）以外の地からは、過日、佐渡で発見された酷似挽き臼なども含め（関連記事、館だより第9号参照）、土肥金山（静岡）と十島金山（山梨）で各1点ずつ確認されていますが、果たしてその地で製作されたものなのか、若しくは甲州金山退転後に移動してきた金山衆たちによる技術伝播を示すものなのか、はたまた近世になってから持ちこまれたものなのか、その地で確認されている点数が複数ではないなど検証の余地は多くありますが、中世の金山の様相、そして金山衆たちの動向を知る上でも極めて重要かつ興味深い資料です。今回は収蔵品の中から以下の2点を紹介します。

（学芸員 小松美鈴）



湯之奥型上臼（収蔵番号1）

径がやや大きく、重量も復元推定28kgでリンズ型と遜色なし回転痕ははっきりしているが供給孔と軸受孔の間にはあまりみられない。これは供給孔から投入された鉦石が中心に流れていないことを示している。



湯之奥型上臼（収蔵番号104）

緑色凝灰岩で、板状に割れやすい石質のため磨り面はほとんど剥離してしまっているが、かすかに左流れのものくぼりの溝がある。直径は32cmと、湯之奥型の中でもやや小さめ。

私の研究ノート⑥

湯之奥金山・富士(麓)金山の金山衆④

高岡伸五 (湯之奥金山博物館友の会会員)

今回も湯之奥金山 (中山・内山・茅小屋)、富士(麓)金山の金山衆について、考えてみたいと思います。

「私の研究ノート」③から⑤まで金山衆を追いかけてきました。そして、金山衆と思われる人物、あるいは、その周辺にいる人物の「実名」等を文献から引き出し、館日より第14号では、それらを紹介しました。しかし、それは研究のたたき台の段階ですから、個々の検証はさらに十分な検討が必要です。

さて、慶長2年(1602)4月19日「志村甚之助証文」というものが、富士(麓)の竹川家に残されています。内容は富士(麓)金山と中山金山の掘間が双方の間で入り乱れたことで、掘間の確認をした文書ですが、中山の分、富士の分が定められています。この時代は統治者が河内も旧富士郡も穴山氏だったため、金山衆の方も国境にこだわらず、われ先に掘間を確保したことで、きちんとした裁定が必要になったと思われます。その掘間の配分は下記のとおりです。これによって掘間の秩序が守られたと思われますが、今回はここに現われた金山衆(間歩主)の名前です。数人の名前は律令時代の名残りを受けた官

職名が名乗られていることです。

この官職名がこの時代にどういう意味をもっていたのか、まだ疑問ですが、また誰からもらったのか、単に自称なのか、先祖代々のものなのか分かりませんが、金山衆と言われる間歩主がこうした官職名を使っても、違和感がなかったことだけは確かだと言えます。

「こさいし」の宮内左衛門は、天正2年(1574)11月にも、武田家から「武田家普請役免許朱印状」をもらった旧富士郡14村・49人の一人ですが、既に「宮内」と言う官職名で朱印状を貰っていますし、他にも「縫殿」などの官職名が見られます。こうした官職名が単なる「自称」でなく、地域の指導的な立場にいるとか、資産家であるとかいった背景のもと、それなりの身分をもっており、武田家も朱印状発給において、こうした官職名を使ったのではないかと思います。

研究ノート④では、この「縫殿」から、門西家の祖、縫殿縫右衛門との関係も考えましたが、こうした「官職名」であれば、また、検討を要する問題だと思います。

中山分

一口	四月掘間	興左衛門
一口	同上	善兵衛門
一口	雪 窪	(井出) 半左衛門

富士分

一口	雪 窪	将監 (しょうけん)	官職名 (兵衛府)
一口	嶺 はり	(石井) 雅楽助 (うたのすけ)	官職名 (治部省・雅楽寮)
一口	す くの	(志村) 甚之助	
一口	四月掘間	(井出) 半左衛門	
一口	雪 窪	藤兵衛	
一口	雪 窪	源造	
一口	花 から	新左衛門	
一口	花 から	孫衛門	
一口	あかかれ	民部尉	官職名 (民部省)
一口	論 掘 間	彦之尉	
一口	す す の	右近助	官職名 (右近衛府・令外官)
一口	はなから	民部尉	官職名 (民部省)
一口	こさいし	宮内左衛門	官職名 (宮内省・木工寮)

「友の会」 会員募集

「友の会」とは、「博物館をとおして学習する会」
です。

入会されますと

- ・金山博物館常設展示・企画展示の無料観覧
- ・友の会主催の各種行事に参加
- ・「博物館だより」「情報」「行事案内」の送付
- ・博物館発行物の1割引き購入
- ・会員期限は、平成13年4月1日～

年会費

- ・個人会員 大人・大学生 1,000円
 - 高校生 500円
 - 小・中学生 300円
 - ・家族会員 2,000円
 - ・特別賛助会員 5,000円
- 詳細は、当博物館までお問い合わせください。

平成14年3月31日まで

公開講座のお知らせ

金山衆の産金技術を探る …「粉成・比重選鉱・灰吹・色揚げ」の理論と実際…

通算回	期 日	演 題	講 師 名
第21回	平成13年 9月29日(土)	「湯之奥型、黒川型、リンス式定形型」 挽き臼の特質と実際	湯之奥金山博物館 館長 谷 口 一 夫
第22回	10月20日(土)	比重選鉱の方法と実際	砂金掘りコーディネイター (砂金夢追人) 齊 藤 勝 幸
第23回	11月17日(土)	灰吹き法の理論と実際	和光金属技術研究所 代表 伊 藤 博 之
第24回	12月18日(土)	色揚げ技術の理論と実際	和光金属技術研究所 代表 伊 藤 博 之
第25回	平成14年 1月19日(土)	文献に表れた甲州金と現物貨幣	早稲田大学・白梅学園短期大学 非常勤講師 西 脇 康

主 催 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
下部町教育委員会

会 場 湯之奥金山博物館多目的ホール (JR身延線下部温泉駅下車・徒歩約3分)

時 間 午後2時～午後4時

受講料 無料

- その他
- ◎ 博物館見学及び砂金採り体験希望者には割引券を用意いたします。
 - ◎ 気象条件や講師の都合等により日程が変更される場合がありますので、その都度博物館へお問い合わせのうえ御来館ください。

編 集 後 記

一般的に蛍の見ごろは5月下旬から6月中旬。今年も蛍の便りを耳にする季節を迎えました。もうピークは過ぎてしまいましたが、それでも季節外れに、それも7月も半ばを過ぎたころに、1匹、2匹ふわりふわりと飛んでいる様子は逆に蛍の優雅さをいっそう、際立たせるようです。

蛍の季節は梅雨の季節でもあります。博物館の周囲の紫陽花も綺麗に色付いています。

発行 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
山梨県西八代郡下部町上之平1787番地先
TEL 0556 (36) 0015
FAX 0556 (36) 0003

博物館だより

第17号
平成13年6月30日

博物館ホームページアドレス <http://www.2.town.shimobe.yamanashi.jp/kinzan/>

博物館Eメールアドレス kinzan@town.shimobe.yamanashi.jp